

学長裁量経費（教育改革支援プロジェクト）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

プロジェクト名	ソーシャル・キャピタルの再構築を基盤にした自発的キャリア形成の支援		
プロジェクト期間	平成 22 年度～平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	生田淳一 (教育心理学講座)	共同研究者 (所属講座等)	永江誠司 (教育心理学講座) 笹山郁生 (教育心理学講座) 中村俊哉 (教育心理学講座) 中島義実 (教育心理学講座) 黒川雅幸 (教育心理学講座)
取組方法および 取組実績の概要	<p>本研究では、2年目の取り組みとして、平成 22 年度の活動で醸成されてきたSC（ソーシャル・キャピタル、学生同士のつながり）を基盤とした活動の継続を計画した。学生のニーズを踏まえた勉強会などの活動を継続し、学生によるマネジメントが可能となるよう取組を進めることとした。そのために、取組1「新たな勉強会（模擬授業検討会）を創設し、実施すること」、取組2「全学年が共通して取り組めるイベントを学生主体に創設し実施すること」の2つの取組を計画した。</p> <p>実際には、取組1については、8月末から9月末にかけて模擬授業検討会を実施した。9日間実施し、のべ27名が参加した。取組2については、キャリア座談会を実施した。また、例年実施している合宿研修と本取り組みをリンクさせて、1年生・3年生の合同で実施した。研修では、3年生がプログラムの企画から参画し、当日の運営では、2年生も参加して、マネジメントの一部を担った。どちらも、オープン参加とし、全学年の学生の参加を促したが、実際には、全学年が一堂に会するような取り組みとはならなかった。一部、目標通り活動できなかったものもあるが、計画した内容に従って、活動を展開できた。</p>		
研究成果の概要	<p>本取り組みの2年目（平成 23 年度）の成果は次の4点である。成果1「勉強会の創設・再構築」、成果2「学生主体の活動組織の萌芽」、成果3「ICTを利用した情報共有システムの継続運用」。</p> <p><u>成果の具体例（アンケートやインタビュー結果より）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○勉強会や座談会の中で、情報を共有し、励まし合える仲間ができた。</li> <li>○目標となるモデルとなる先輩・ライバルとなる同輩を見つけることができた。</li> <li>○ALL 初心理の組織を意識できるようになり、学生による主体的な組織化の取り組みが始まった。</li> <li>○「蓄積した情報」や「学習活動の評価」について情報を継続的に発信（教員）・受信（学生）できるようになった。</li> </ul> <p>前年度の取り組みで、整備された活動のマネジメントの仕組みをいかして、SCを広げることができた。具体的には、ニーズを持った小集団の取り組みから、教育心理学選修所属学生全員を対象とした集団への取り組みが可能に</p>		

	<p>なった。このように教師主導の集団から、学生主体の集団に移行することで、集団を財産・伝統して、引き継いでいくことが可能となり、継続的なキャリア支援システムへと展開できると考えられる。平成 24 年度以降は、すべての活動を、SC を基盤とした学生主体の組織「TAP : Team All Psychology」（仮称）が主導して実施する予定であり、今後の自発的キャリア形成の進展が期待される。</p>		
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得申請（予定）</p>	<p>教育改善に関する補助金</p>	<p>研究成果の公表方法（予定）</p>	<p>ホームページに掲載</p>